

《「こんにちは訪問」を実施しました》

～地域の皆さまの声を、当社および発電所の運営に活かしてまいります～



7月19日から29日にかけて、地域の皆さまに発電所に関する情報をお知らせし、ご意見をいただく対話活動「こんにちは訪問」を実施しました。

平成6年の開始から29回目となる今回は、発電所員延べ約220人が、女川町と石巻市牡鹿半島部の約4,000戸を訪問させていただきました。

対話活動の中で、皆さまからいただいた貴重なご意見は、当社および発電所の運営に活かしてまいります。



お忙しいところご対応いただきありがとうございました。
地域の皆さまから貴重なご意見をいただきました。

地域総合事務所
千葉 広明 (石巻市出身)

地域の皆さまを思いながら、安全な発電所に向け、日々の仕事に取り組んでまいります。



技術統括部 技術グループ 横澤 成憲 (石巻市出身)

《2号機非常用ディーゼル発電機用の軽油タンクを据え付けしました》

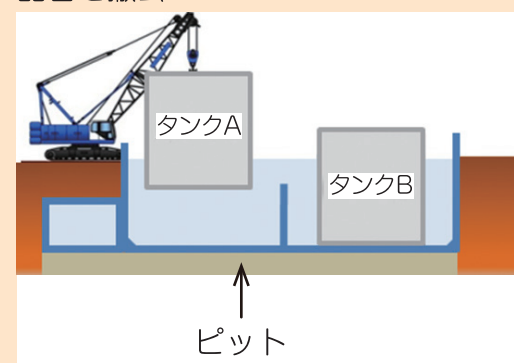
女川原子力発電所では、2号機の非常用ディーゼル発電機*の燃料を貯蔵する軽油タンクを2個所に分けて埋設する工事を進めており、軽油タンクの据え付けを7月8日～8月7日の期間で行いました。

この工事は、これまでの半地下式の既存の軽油タンク(330k l×2基)を撤去し、同一ピット内に軽油タンク(110k l×6基)を据え付けするもので、この工事により、万一の軽油タンクの火災から周囲の重要施設を防護したり、竜巻や火山の噴火などの自然災害から軽油タンクを守ることができ、非常用ディーゼル発電機の信頼性の向上を図ることとしております。

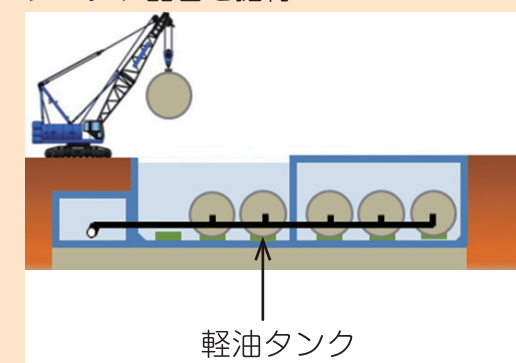
*非常用ディーゼル発電機・・・外部電源が失われた場合に、原子炉の停止や原子炉および使用済燃料プール等の冷却に必要な電源を供給する設備。

工事のイメージ

ピット内から、既存の軽油タンクや配管を撤去



同一の場所に、新たに地下式の軽油タンク、配管を据付



陸揚げのため吊り上げられる軽油タンク

発電所の安全の命綱である電源をしっかり確保するため、気を引き締めて据付工事に取り組みました。



保全部 原子炉グループ
栗津 駿介 (岩手県出身)

《女川原子力規制事務所からの指導文書の受領について》 ～女川2号機警報発生事象に対して～

7月22日、原子力規制庁女川原子力規制事務所より、7月8日に発生した原子炉を自動停止させる警報の発生事象を受け、「手順の検討およびそのレビュー等が不足することに起因する事象の再発防止を徹底するため、安全上重要な設備の復旧作業に係る作業管理の改善を図ること」との指導文書を受領いたしました。

この事象が発生した女川2号機では、安全対策工事の過程で、原子炉建屋に設置されている「地震計」のケーブルを撤去するため地震計を停止しておりましたが、作業後に地震計を復旧する際、地震計を通常状態に復帰させる「復帰ボタン」を押さないまま復旧したために発生したものです。

女川2号機の原子炉は停止中で原子炉内の燃料は全て取り出しており、本事象による発電所設備への影響、ならびに発電所周辺への放射能の影響はありませんでした。

当社は、規制事務所より受領した指導文書を重く受け止め、今後、作業手順等の改善や、教育の充実等の対策を確実に実施し、原子力発電所の安全確保に万全を期してまいります。

《火災発生情報の誤発信について》

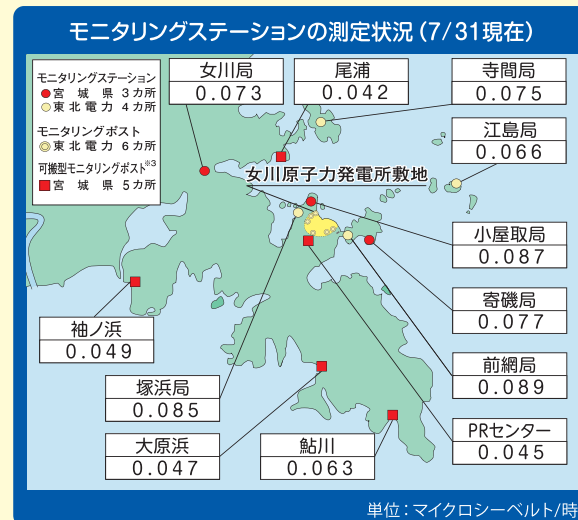
7月27日、女川3号機中央制御室に設置されている火災用緊急連絡装置から、実際に発電所において火災が発生していないにもかかわらず、国および関係自治体等の関係者に対し、火災発生情報が誤って発信される事象が発生しました。

本事象は、当該装置の定期的な時刻調整を実施しようとしたところ、ディスプレイの画面が表示されなかったことから、ディスプレイの交換作業を行っていた際に、火災発生情報が誤って発信されたものです。今後、再発防止に向けた対策を講じてまいります。

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト^{*1}やモニタリングステーション^{*2}で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.060マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



地震発生日	測定値
〈東北地方太平洋沖地震発生日〉 平成23年3月11日	0.027～0.064
〈地震発生後最大値〉 平成23年3月13日	1.8～21 ^{*4}
〈地震発生以降毎年度(4/1)の値と至近値〉	
平成24年4月1日	0.063～0.098
平成25年4月1日	0.055～0.076
平成26年4月1日	0.046～0.065
平成27年4月1日	0.043～0.077
平成28年4月1日	0.041～0.061
平成28年7月1日	0.039～0.058
平成28年7月31日	0.039～0.060

単位：マイクロシーベルト/時

- *1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日(平成23年3月13日)の値、毎年度(4月1日)の値、至近の値を掲載しています。
- *2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。
- *3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。
- *4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。

《女川3号機 非常用ディーゼル発電機B号機の不調および復旧について》

8月5日、女川3号機の非常用ディーゼル発電機B号機の定期試験を実施していたところ、定格出力到達後の出力調整を行った際に、操作に対しての発電機出力の応答が通常よりも遅れることを確認したため、同発電機を手動で停止しました。なお、本事象による発電所周辺への放射能の影響はありません。

原因について調査を行った結果、当該発電機の調速機^{*}に異常が生じている可能性があるかと判断し、予備の調速機に交換しました。その後、発電機の出力調整が正常に行われていることを確認し、8月12日に復旧しました。

引き続き、設備の適切な点検・補修等を通じて、原子力発電所の安全確保に万全を期してまいります。

^{*}調速機・・・ディーゼル発電機への燃料の供給量(出力)を調整し、発電機回転速度を一定に保つための制御装置。

新規基準適合性審査状況のお知らせ(7月末現在、審査会合77回開催)

《基準津波の策定(3.11型の地震に起因する津波)について》

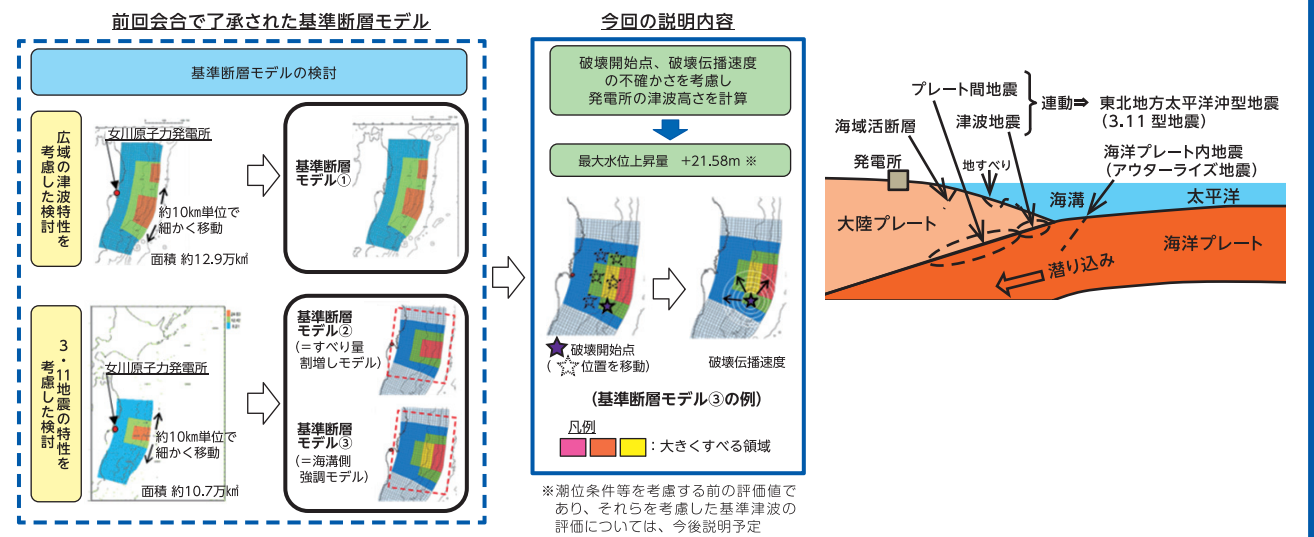
女川2号機の適合性審査では、基準津波^{*}の策定のうち、「3.11型の地震に起因する津波」について審議されています。(平成28年7月8日)

3.11型地震(連動型の巨大なプレート間地震)に起因する津波の評価について、不確かさを考慮して計算した結果を説明しました。

原子力規制委員会からは、水位下降側の評価に関するコメントがあったものの、3.11型地震に起因する津波の評価について、概ね理解が示されました。

今後、今回いただいたコメントへの回答ならびに3.11型地震以外の地震(津波地震、海洋プレート内地震等)に起因する津波に関するコメントへの回答等について説明していきます。

^{*}原子炉施設の供用期間中(運転開始から廃炉までの間)に極めてまれではあるが発生する可能性があり、施設に大きな影響を与えるおそれがある津波。



審査会合の詳細は当社ホームページをご覧ください。

東北電力 女川審査会合

検索